

鴨居中だより

横須賀市立鴨居中学校校長 山田伊久男

保護者の方と一緒に読みましょう

平成30年（2018年）10月11日 NO. 6

無事に前期が終了しました。熱中症や自然災害などのニュースが、各地から報告されていたので、大きな事故や事件が起らずに前期を終了できて、ほっとしております。

9月は特に台風の影響が大きく、体育祭の活動がスムーズに進まなかったところもありましたが、最終的には大成功を収めることができました。学校の取り組みに対してみなさまからご理解とご協力をいただき、心より感謝します。



全校講話 8月版

体育祭の取り組み期間中は、練習時間に余裕がない中で、レベルの高いものを目指して頑張っていますので、どうしても時間ぎりぎりまで練習をすることになります。そのため清掃やHRなどの日常生活に支障が出たり、休憩時間が十分でなかったりすることが懸念されていました。

そこで、自分たちのカラーは体育祭直前になったときに、ぎりぎりの判断として、次のどちらを選んでほしいかを考えさせました。A：「完成度を高め、優勝を目指す。でも、時間ぎりぎりですんどいかも。掃除などはやり切れないかも。」B：「日常のやるべきことを重視。時間や精神的に余裕を持つ。でも完成度が低いかも。優勝できないかも。」です。我々大人でも迷いますし、そもそも練習の進み具合やその日の様子や生徒のコンディションなどによって、その判断は変わってくると思います。実は、各カラーのリーダーの生徒たちは、もちろん教師とも相談しますが、そういう難しい判断を、毎日余儀なくされているのです。

結果はAが約57%、Bが約43%でした。1,2年生に比べ、3年生の方がBを支持した生徒が多かったことは興味深いことでした。生徒たちの声をいくつか抜粋します。（手を加えたものもあります。）

A派 ●体育祭は一年に一度しかないから、完成度を高めたい。掃除は後でもたくさんできるから。 ●時間ぎりぎりでもむだな時間を減らせば、日常のやるべきこともしっかりできるから。 ●最終目標は優勝だし、そのためにしんどいのは仕方ない。掃除とかもやり切る！ ●完成度が低いとみている人もがっかりするし、最後の体育祭を今までにないくらいの体育祭にしたい。「～かも」というところでもやり切れるところはやり切ろう！

B派 ●日常のやるべきことができないのに、体育祭だけ頑張っても仕方がないから。 ●体力のない私からしたら、時間ぎりぎりはとってもしんどいから。 ●Aにしても本当に優勝できるとは限らない。Bにして、一人ひとり気持ちよくやれる方がいいから。 ●掃除に食い込むまで練習時間を取らなくていい。日々の仕事をしたうえで練習することで、時間の使い方が上達する。それが体育祭を通して成長するべき姿だと思う。

講話を聴いて考えたこと ●優勝することがすべてではない。一番大切なのは団結すること、楽しむこと。 ●体育祭で自分を成長させたい。 ●しっかり頑張って、そこから日常生活に生かしていく切り替えが大事。 ●リーダーとして最高の体育祭を作り上げたいと、つい先走ってしまうが、上に立つ者として、心を配り、思いやりをもって臨みたい。



生徒たちは、体育祭の練習にも、清掃などの日常生活にも、高い意識で取り組めていました。

全校講話9月版

ここ数年閉会式後に、勝敗やカラーの壁を越えて、母校賛歌を輪になって歌うようになりました。今年は、優勝したいという気持ちと同じくらい、カラーの壁を越えて体育祭を成功させようという意識が高かったと思います。特に3年生のリーダーたちに顕著でした。当日、負けた悔しさや自らのふがいなさに泣いていたリーダーもいましたが、取り組み期間中には、応援団長・作戦団長はカラー練習の際の悩みを相談し合い、デコ団は作成途中のデコを互いに見せ合い、アドバイスをしたり、塗料などを共有したりしていました。学校行事の勝負事において、中学生がここまで行うのは相当レベルの高いことだと思います。



私は「リーダーたちは、結果や勝負には真剣な一方で、全校の仲間意識も強い。そのバランスがいい。そんな雰囲気は鴨中スタイル、(＝校風)というものになったら素晴らしい」と語りかけました。生徒たちの反応をいくつか抜粋します。(手を加えたものもあります。)

・初めての体育祭だったが、この雰囲気はいいなと思った。この雰囲気やスタイルを伝え、受け継ぎ、地元の方々に鴨中のイメージがこのスタイルと合わさって連想されるようにしたい。



・鴨中スタイルは何に縛られるというわけではなく、

私たち自身で伝統として作り上げ改善しながら受け継ぐものだと思う。

・鴨中の校風になったらいいと思いましたし、もう鴨中の校風になりつつあるのではとも思いました。今年の体育祭では、チームの仲間だけでなく相手のチームとも助け合えました。今までの学校生活でもそういう場合が多くあるからです。

・もしこういう校風になったら、いろんな行事がもっと楽しくなると思った。

・今の鴨中にとって当たり前のことかもしれないけど、他校からしたら違うかもしれないから、鴨中の校風になったらいいと思った。

・いい歴史を作るためには、「鴨中スタイル」を目指していくのはいいことだと思う。そのためには行動で示すべきだと思う。

・今まで「バランス」ということについてあまり考えたことはなかったけど、きっと大切なものだと思う。今、バランスが良い感じだからこれからも維持していきたい。

・この2つの意識のバランスは部活のときなどでも必要だと思う。

・今の3年生が卒業して、1年生が入ってきて、それを維持していくことは難しいかもしれない。

・私たちが卒業した後、どうなるかは分からないけど、私たちは体育祭で仲間意識の大切さを伝えたとし、鴨中祭では集団での行動の大切さを伝えるつもりなので、後輩たちがそれを受け継いでくれたら、いい鴨中スタイルができると思いました。

・この校風は一人一人が意識しないといけない。リーダーがどういう人かも重要になる。ただ、こういう校風があれば、きっと鴨中の中身は濃く染まっていて、より価値のある学校を作れると思う。

・自分の通っていた学校がずっとそういう雰囲気だったら、誇りを持てます。(今も持っていますが) そのためにもまずは挨拶などを心がけたいと思います。

・今学校に来られていない人もいるけどみんなが学校に行きたいと思えるような良い雰囲気にするべきだと思う。

・行事以外の日常生活ではあまり友達をよく思っていない人もいます。そんな人たちも鴨中スタイルを意識することができたら、なおよくなると思います。私はそんな学校、校風であることを望むし、周りからそういうふうに言われて、聞いていて誇らしいと思えるようにしたいです。

みなさんのころはどんな校風だったのでしょうか。地域に愛される学校でありたいと思っています。